

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第11回

センナ

センナは学名が *Cassia angustifolia* Vahl でインド南部やアフリカナイロ川中流域等で栽培されるマメ科に属する 4 m 前後の低木です。

学名は *Cassia* がケイヒから転化し、*angustifolia* は葉が狭い意です。



薬用には小葉が用いられ、緩下剤として1回量粉末0.25-0.5 g を1日1-3回服用します。

通常は大黃末と併用したセンナ大黃錠が多く用いられます。又、センノシド錠としても市販されています。

センナにはアントラキノン2量体の配糖体であるセンノシドA、センノシドB、その他のアントラキノン配糖体が含まれます。

センノシドA,Bは腸内細菌により還元的に代謝されレインアンスロンとなり瀉下作用を引き起こします。従って抗菌剤・抗生物質との併用は当然力価が低下しますので注意が必要です。

又、センノシドA,Bは母乳を通して乳児に移動し乳児の下痢を起こすことがありますので要注意です。

センナの小葉は医薬品ですが、葉柄や茎は非医となっていますので、痩身用サプリメントに用いる事も少なくありません。

しかし、葉柄と葉軸の区別に混乱が生じる事も有り違反につながる場合もあります。

本画はカーチスのボタニカルマガジンに掲載されたもので、1700年代末の手彩色による作品です。